

第46回 全国育樹祭

いばらき 2023

誰かじゃない 僕が育てる 緑の日本

お手入れ行事 11月11日(土) 茨城県水郷県民の森 (潮来市)

式典行事 11月12日(日) アダストリアみとアリーナ (水戸市)

全国育樹祭は、継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発するため、全国植樹祭を開催したことがある都道府県において、昭和52年(1977年)から行われており、大会では全国植樹祭において天皇皇后両陛下(現在の上皇皇后陛下)がお手植えされた樹木について、皇族殿下によるお手入れを行うほか、皇族殿下によるお言葉や各種表彰、参加者の育樹活動等の紹介が行われます。

今回の第46回全国育樹祭は、平成17年(2005年)に水郷県民の森で天皇皇后両陛下によってお手植えされた樹木のお手入れが行われます。

○第56回全国植樹祭(平成17年(2005年)6月5日 水郷県民の森)

水郷潮来あやめ園にもご来園いただきました。



まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

潮来市の誇れる自然

第78回

公開シンポジウム「霞ヶ浦流域研究2023」が大盛況

GW明けの潮来市内では水郷らしさが満喫できます。水田でイネが育ち、湖岸でヨシも繁茂していて、小魚や昆虫、アマガエル、水鳥などがざわめいています。コロナ禍の数年間も、こうした水辺や生きものの現況を調べるため、学生たちが日々コツコツと卒論・修論調査(写真1)に取り組んできました。

霞ヶ浦流域で調査・研究を行う学生や研究者、市民が集まって、最新の成果を報告しあうシンポジウム「霞ヶ浦流域研究2023」が、潮来市にある水圏環境フィールドステーションの主催で、3月5日(日)にオンラインで開催されました。□頭発表15件、ポスター発表7件が行われ、県内外から102名の参加がありました。

今回も発表内容は盛りだくさん。例えば、霞ヶ浦に侵入し分布を拡げつつある中国原産ダントウボウ(写真2)がある中国原産ダントウボウ(写真2)



(写真1) コロナ禍の冬も続いた学生たちの魚類調査(高沢剛希撮影)



(写真2) 霞ヶ浦周辺で採れた外来魚ダントウボウ *上品な味の魚です。

が岸近くの植物を食べる習性、霞ヶ浦でのワカサギ漁獲量の推移とエサのプランクトンの動態、ヨシ帯の縮小が魚類相に及ぼしてきた影響、地球温暖化が霞ヶ浦の水環境に何をもたらそうか、巨大区画水田での乾田直播実証実験など。さらには、マイクログラスチックやカーボンニュートラルの問題も関わる二枚貝の飼育実験、福島県の帰還困難区域での放射線物質の挙動まで。発表後には学生たちや研究者の議論も白熱しました。

今後とも、地域の方々とのつながりを大切にしながら、学生たちが調査・研究を続けて、水辺の環境問題のいまとこれからのことを考えていきます。ご理解とご協力のほどをお願いいたします。

加納 光樹

茨城大学地球・地域環境共創機構水圏環境フィールドステーション